

2015 年度公開講座「地域における『共生』を考える」

ご報告

地域科学部では毎年公開講座を開催しています。今年は「地域における『共生』を考える」をテーマに、昨年と同じく、柳戸校舎において2日間開催するとともに(9月26日(土)及び27日(日))、別の日程で郡上高等学校においても開催しました(10月26日(月))。

「共生社会」、「多文化共生」、「双利共生」など、「共生」ということばは、重要なキーワードとして広く注目を集めています。しかし、時として曖昧な美しいスローガンにとどまったり、その意図に反して一種の同化圧力となっていないでしょうか。

今回の講座では、哲学、人類学、経済学、生物学など様々な観点から、具体例をあげながら、「共に生きること」の本質を考える手がかりを提供するよう努めました。講座の各内容は以下のとおりです。

9 月開催編(柳戸校舎にて)

- (1)「郡上で自然との共生を考える～NPO 活動の観点から～」(興膳健太：NPO 法人代表理事)
- (2)「ヒトの暮らしと森林のかかわりの昔、今、そしてこれから」(肥後睦輝：生物学)
- (3)「私が生まれた家にはゴミ箱がなかった：カナダ先住民カスカの資源利用に見る循環の思想」(山口未花子：人類学)
- (4)「外国人市民との共生に向けて」(橋本永貢子：現代中国語学)
- (5)「格差と共生——ピケティブームが示したもの」(新井田智幸：経済学)
- (6)「能力次元からの共生（共に生きる）とはどういうことか？」(竹内章郎：哲学)

10 月開催編(郡上高等学校にて)

- (1)「ヒトの暮らしと森林のかかわりの昔、今、そしてこれから」(肥後睦輝：生物学)
- (2)「私が生まれた家にはゴミ箱がなかった：カナダ先住民カスカの資源利用に見る循環の思想」(山口未花子：人類学)
- (3)「共生とはどういうことでしょうか…文学を例にとって」(中川一雄：英米文学)
- (4)「格差と共生——ピケティブームが示したもの」(新井田智幸：経済学)
- (5)「能力次元からの共生（共に生きる）とはどういうことか？」(竹内章郎：哲学)

二回開催した公開講座のどちらも大変好評でした。以下はその声の一部です。

・共生を自然あるいは社会の面などあらゆる方向から考えることにより改めて共生とは何かについて考えさせられました。この講座で聞いたことを元に新聞などで自分なりに共生について理解を深めていきたいと思いました。

- ・社会・市場・共生（自然・森林・カスカ外国人）、能力次元（私的所有権とは）からの共生と、短時間ではありますが“まとまった講義”であったと思います。
- ・自身あるいは自分の周りの環境に照らし合わせて考えることができた。与えられた自分の力を発揮しようとファイトが湧いた。
- ・講師の研究取り組みの成果や熱意を感じた。
- ・それぞれの内容がよかった。わかりやすい講義であった。
- ・昨年度同様興味深かった。“人としての生き方（共生）”についてのテーマで、今後も多角的にとらえた研究内容をきかせていただきたいです。
- ・地域科学部という名前しか知らなくて、でも今回の話をきいて、色々なことをやっていて、自分の興味をもったものを追求できるのはおもしろいと思いました。

地域科学部は、今回の公開講座の講師の顔ぶれをみてもわかるように、理系の研究者も文系の研究者もいる学際的で自由な学部です。今回のテーマにかぎらず、今後も広い視野で総合的・学際的に研究する学部として研究・教育・社会貢献事業の実践に努めて参りたいと考えています。

(2015年度公開講座委員長：内海 智仁)

